

放課後等デイサービス ぴっころんど 事業所自己評価シート

職員による自己評価

※スタッフ 12 名にアンケートを実施。

環境面

・概ね、評価は高い（7/12 のスタッフが環境や体制について適切であるとの評価）。

児童への支援内容

・ガイドラインの総則の基本活動についての理解が浸透していない（7/12 のスタッフが質問の内容が理解できていないと思われる）。

関係機関との連携

・自立支援協議会等を通して、他機関と繋がっている。

保護者への説明責任・信頼関係

・「保護者との意思の疎通・情報伝達のための配慮」への評価は高い（11/12 のスタッフが高評価）

非常対応

・6 項目ある質問中、5 項目に対して、8 名以上の職員が肯定的な返答をしている。

保護者による評価

※保護者 48 名にアンケート用紙を配布。
そのうち、30 名がアンケートを実施。

環境面

・概ね、評価は高い（25/30 の保護者が環境や体制について適切であるとの評価）。

児童への支援内容

・「活動プログラムが固定化しないように工夫されているか」との問いに、「はい」が 11 名、「どちらともいえない」が 18 名。

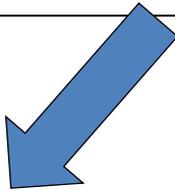
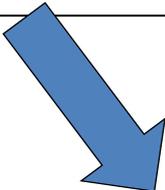
・「障害のない子どもと活動する機会があるか」との問いに、「はい」が 5 名、「どちらともいえない」が 15 名。「いいえ」が 10 名。

事業所からの情報発信

・8 項目あるすべての質問について、22 名以上の保護者が、肯定的な返答をしている。

非常対応

・「どちらともいえない」との返答が一番多い。



事業所内での分析

【共通点】

- ・環境面に関する評価は高い。
- ・児童への支援内容については、活動プログラムに関して、「どちらともいえない」との声が多く寄せられている。今一度、内容を考える必要があるとの認識が一致している。
- ・職員と保護者との意思の疎通は、双方ともできていると捉えている。

【相違点】

- ・非常対応について、保護者に対しての説明が不足している。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- こどもが通所を楽しみにしている。
- 事業所の支援に対し、保護者から高い評価をいただいている。
- 環境面が整っている。
- 職員と保護者との意思の疎通は、双方ともできていると捉えている。
- 活動場所の同じ階に青少年地域活動拠点があり、日常的に交流の機会がある。
- 栄区自立支援協議会（栄区の障害関係機関等が定期的集まり、地域の課題について協議する取り組み）などを通し、関係機関との交流がある。
- 避難訓練や搜索訓練、感染症研修など、非常時に対する準備ができている。

事業所の改善点

- スタッフ間で、一人ひとりのこどもについての情報共有していく以外にも、ガイドラインの内容を共有するなど、学びの機会を設け、支援への根拠を確認していく必要がある。
- 職員から保護者に対して、一人ひとりのこどもたちの様子以外にも、非常時の対応や事業所全体の取り組みなどの情報発信を強化する必要がある。

～事業所の改善への取り組み～

事業所全体が取り組んでいることを、スタッフ間で共有するとともに、保護者へ情報発信をしていく必要がある。保護者アンケートからは、日頃のこどもたちの様子を伝えること以外の発信（非常時の対応など）が不足していることが分かる。この改善のために、引き続き、ぴっころんど通信（通信誌）の発行や、家族連絡会での周知内容を検討し、こどもたちの情報とともに、事業所の取り組みなども伝えていく。また、同じ階にある青少年活動拠点や地域のボランティアの方との交流など、積極的に保護者やスタッフと共有していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

前回のアンケートから保護者への情報発信が不足していることを学び、今年度はぴっころんど通信の発行を開始した。一歩踏み出せたことは評価できるが、継続的な情報発信の必要性を感じている。今回のアンケートでも、引き続き情報発信は課題となっている。今回、保護者からいただいたご意見を、職員間でも共有し、地道な改善への努力を続けていきたいと思っております。

事業所名：サポートセンター 放課後等デイサービス ぴっころんど

担当者：管理者 庄司晃洋

児童発達支援管理責任者 水上武史